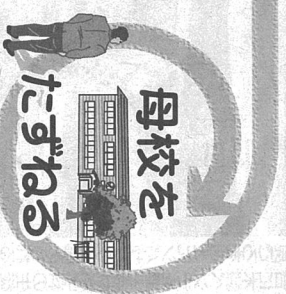


# 「何でもあり」自由な校風



## 明治学院大准教授 猪瀬浩平さん 1996年度卒



明治学院大の猪瀬浩平准教授  
—さいいたま市浦和区で—

旧制中学を前身とし、創立から約120年の歴史を持つ埼玉立浦和高は、地域を代表する伝統校として、同県立熊谷高や神奈川県立湘南高(鎌倉市)など他地域の伝統校と交流を深めてきた。創立100周年の節目に在学し、熊谷高との「百年対決」を経験した明治学院大の猪瀬浩平准教授(37)1996年度卒に、

浦高は、とにかく自由な学校でした。中学3年の時の通いで、応援団や生徒会のメンバーが、浦高と湘南高が騎馬戦や部活動を通じて交流するのを特異しているのを見て、面白がる。思った。学校説明会にいくと、生徒が文化祭にうを連れてきよとしたり話や、自作したホバークラBで宇宙飛行士の若田光一さんが乗った宇宙船「エンフ」が評判を呼んで大集客が、視察に来たという話や、浦高には、そんな人がいるんだと驚きました。入すると僕たち新人生は、竹刀を持った応援団にやられながら校歌を歌わされました。でも、直後の部活紹介や選抜研究部が応援団のボロイイをしたの、山岳部がユツクを背負って歩いてきたりして何でもありな雰囲気な

いのせ・こうへい 1978年生まれ。大阪大(人間科学部)を経て東大大学院で文化人類学を専攻し、2010年から現職。さいいたま市で父が始めた「風沼田んぼ」は福祉農園に「むらと原」も関わる。近著に「むらと原発」(川原発註)画をももみ消した四万十の人のびと(農文協)。

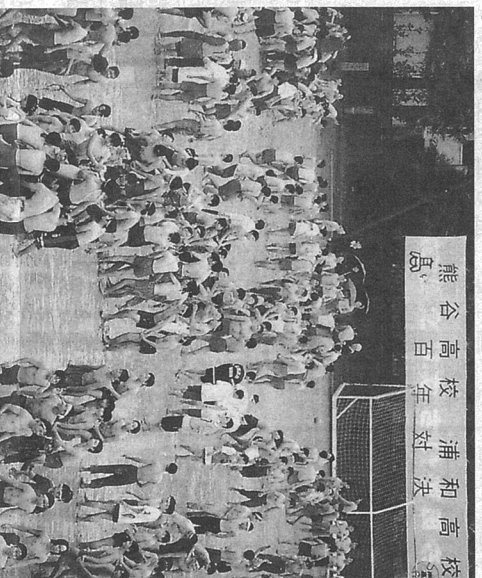
## 県立浦和高校

4

100年のスパンで語ることも、数々の記念イベントで盛り上がり、兄弟の影響でボランティアの足跡が、今は明治学院大を研究し、今後は浦高の文化祭で「俺たちも空に羽ばたこうと」を旗本作り、近く中華料理店「仙」に集まることのできる空間を作りたいと、陣書者が働いた。おぼやんを乗せて打ち上げようとしたとつらちいしました。

特に印象的なのは、同年7月に行われた熊谷高との「百年対決」。その時に同じの生徒が「今は負け、次は百年対決」と言ったんです。お互いに一緒に錦をついたり、安採法案に区別した学生

## 他地域の伝統校と交流



1996年7月に行われた浦和高と熊谷高の「百年対決」—県立浦和高同窓会提供—

## 熊谷高と「百年対決」

県立浦和高は1995(明治)年6月、埼玉県第一尋常中学校として創立。同じ月に第二尋常中学校と5年の翌96年7月には、浦和高のラウンドに両校の生徒が集結して互いに男子校でもあり、豊

卒業生「私の思い出」募集  
県立浦和高校(旧制含む)の卒業生のみならず、私の思い出を募集します。300字程度で学校生活や恩師、友人との思い出、またその後の人生に与えた影響などを、お書きください。卒業年度、氏名、年齢、職業、住所、電話番号、あればメールアドレスを明記の上、〒100-8051、毎日新聞地方部首都圏版「母校」係(住所不要)へ。メールの場合はshuto@mainichi.co.jpへ。新聞や毎日新聞のコーナーは、サイトで紹介することがあります。新聞で掲載のことは記念品を差し上げます。

の中、部対抗戦や権制し、綱引き、騎馬戦で競い、浦和高が総合優勝。このトロイは20年目まで浦和高が保管する予定で、次の「百年対決」の日を待っている。また57年から、湘南高とホノの定期戦を開催。全校を基げて1年交代で相手校を訪れ、各運動部が試合をして総合得点を競った。体育会のみならず、囲碁やスイズなど文化系の部活動も交流した。一方で「共学の湘南高の女子生徒が参加できる試合に限られる」との指摘もあり、02年5月の交流が最終回に結局、浦和高は46回引退を制した。11回は8日に掲載します

15日「ぐっさ高都蘭・母校をたずねる」の記事で、埼玉立浦和高同窓会が奨学財団を設立したのが「全国で初めて」とあるのは、「全国でも珍しい」の誤りでした。「県立高の同窓会が奨学金の財団を設けた例は過去になかった」とあるのも訂正します。